

根来山げんきの森倶楽部

令和4年5月作業日誌



新緑の5月。新しく倶楽部員になられた方は里山整備体験講座でチェーンソーを使つての森の整備を体験し、既存の倶楽部員の方々は橋づくりや草刈り、炭出しとそれぞれが森での作業に汗を流しました。

活動日：令和4年5月15日(日) 9:30~15:30 天気：くもり 倶楽部員：46人



プロ級の橋づくり

大谷川の橋づくり・ファイナル…大谷川に沿った林の向こう岸での間伐作業をしやすくするための橋づくりです。材料は現地で伐採した杉を使います。倒したままの一本橋では危険なので、2本の丸太を一对の箸のように揃え、幅を持たせる計画とのこと。一カ月ほど前の第1ラウンドは2本の杉を伐採し、1本目を架けたところで時間切れでした。いくらエンジン付きウインチでも、推定500kg超えの丸太を引きづって計画通りの場所に設置するには時間が必要でした。…というわけで本日第2ラウンドのつもりでいたのですが、現地に着くと、なんと2本目もきれいに並べて架かっていました。仕事の早いベテランの皆さんが今日までに既に整えてくださっていたのですね！

そういうわけで、本日はもはやファイナルステージ。橋の上面を安全に歩きやすく平坦にするように、板を張る作業です。まずは木が虫に食われにくいように杉の皮をはぎ、次に細い方の一方の木と同じ厚みになるよう、もう一方の太い木の上面をチェーンソーで面出しし、水平を取ります。そこへ5寸釘で板を打ち付け完成です。…と、一連の作業を文字で書くと数行ですが、すでに川をまたいで渡された杉の上で作業するのは恐怖です。岸から届くところまではなんとか行けますが、その先で足を滑らせば、川にドボンです。おまけに、皮を剥いだ杉はつるつるすべすべの潤いお肌ですから、スパイク地下足袋でも歩けません。かくなる上は…、いったん川に降り、川底から立てた脚立の上での作業となりました。橋の高さまで脚立で上り、丸太の上面を水平かつ長手方向にチェーンソーで切り整えました。板をはり、出来上がった橋の安定感！お見事です。ボランティアといっても、皆さんプロ級ですね。

ところで、休憩時間に聞いた「木を切る前にはお清めしないと。山の神様がおるからね。」の一言。深い…。そういう気持ちも根来の里山を守っているのですね。(楠 正暢)



植生豊かな地での草刈りは…

歩道の草刈り…刈り払い機組2・手鎌組4の計6名が3班に分かれて、L地点から尾根の取り付き口までの歩道の足元を被っている草、のり面から行儀悪く茂り出している枝葉、背丈近くまで伸びたネザサやススキを刈り取り、アラカシ・クスノキ・マテバシイの萌芽枝はノコギリで処理をして午前中に作業を終えました。此処はクラブ員になって最初に作業をした場所で有り、げんきの

森の中でも最も早い時期に植樹した箇所、植生調査をしている私にとって馴染みのエリアです。地名の由来となった自生のムクノキや 20 年を経て立派に育ったカツラ・タムシバ等の植栽木の下には、サイハイランやコシオガマほか希少な草花が観られ植生が豊かです。でも、これら繊細な植物は、快適な環境を維持する為の作業（草刈りや道の補修…）によって消滅する事も…。貴重な生物の保護と、放っとけば藪状態にまで繁茂する草木の退治、歩道や施設のメンテナンス等の両立はけっこう難しい問題だな～って感じています。午後からは各々別の作業をしましたが、Yさんは引き続きM地点までの尾根筋の刈り払いをしてくださいました。皆さんお疲れ様でした。（水口 和子）



倒木の整理と茶摘み

うるし谷整備…本日はうるし谷にて2つの作業が行われました。1つは倒木の整理で、男性6名で行いました。うるし谷の倒木の整理も大口徑を残してはいるものの一番奥の段の整理に入っています。チェーンソー大小1台ずつで太い幹を受け持ち、先輩方は小枝の整理を手際よくやって頂き、今日1日で右側の倒木をつたに悩まされながらも終えることが出来ました。

もう1つの作業は茶摘みです。女性3名で午前中に大きな袋に3つほど茶を摘んでおられ、午後は管理棟の横へ移動し、空炒りの後手揉み、そしてザルに広げて乾燥の段取りまで完了。塊・重なりは湿気を持ちカビが生えるので注意が必要との事。天日に当てるとやはり香ばしくなるようです。さて…、これからのお天気はどうでしょうか！？

うるし谷は緑が元気で鳥もよく鳴いています。梅の実・朽木のキクラゲがもうすぐ収穫のようで楽しみもいっぱい。加えて、雨天により少し増水した小川に「鹿威し」の設置作業をされていました。完成ではないようですが、良い音を出していましたので完成が楽しみです。（樺 雅孝）

菊の花のような綺麗な炭も

炭出し作業と薪割り作業…今日は8名の参加で炭出し作業を行いました。窯から出した炭を短く切っていると、切り口が菊の花のような形をした炭が出てくるともあり、綺麗な黒炭が出来たと嬉しいような気持ちになります。

また、今回も折れていない枝炭が出てきたのでメンバーで美しい形の炭を選んでもらい、枝炭の飾り物ができないかを考えてみたいと思います。

炭の出来高は、今回 260 kgでした。炭材 1200 kgの21%が炭になったことがわかりました。次回も計量して確認したいと思います。

炭出し後は薪割り作業とNさん庭園の伐採を行いました。薪割り作業では、スペーサー材の更新をしていきたいと思っています。参加された皆様、お疲れ様でした。（須山 佳則）



何もかもが新鮮な森の作業

里山整備体験講座…里山整備体験講座に息子2人と参加しました。強い日差しもなく過ごしやすい気候の中、木が成長して窮屈になっている場所をノコギリとナタを使って間伐する作業を、体験講座参加者と新入部員の私達を含め10人程で行いました。つる植物が絡み合っていて鬱蒼としている、主に常緑樹を、ノコギリの扱いに苦戦しながらひたすら切り倒しました。コツを掴むと少しの力で切れるようになりました。

午後からは、チェーンソーの使い方を1人ずつ教わりながら実践しました。私の初めてのチェーン



ソー捌き、出来は目を覆いたくなるほど不細工でした。アカマツやクスノキ、オオシマザクラなど、大きな木も整備しました。ミシミシ音を立て、葉を撒き散らし、地響きを上げながら倒れる瞬間、ふわっとたちこめる木の香りとともに、森がぱっと明るくなりました。伐採したての切り株から溢れる水滴に生命力を感じました。みんな一丸となって作業したおかげで、あっという間

にすっきりひらけた空間ができました。

最後に炭用に整えながら伐採したウバメガシとアラカシの丸太を道具小屋までみんなで運び、この日の作業は終了しました。子ども達も、時々遭遇するヤマウルシやハゼノキで体がかぶれるんじゃないかと怯えつつも、整備してかき集めた枝の山をトランポリンだと喜び、遊び感覚で一緒に作業できました。

森に人の手を入れ整える必要性を改めて感じ、何もかもが新鮮な作業や光景に私も子どもも没頭し、1日楽しく有意義な時間を過ごす事ができました。（楠部 侑季）

モチツツジ、ネジキ、クリ、カマツカ、ガマズミなど、今年は森の樹木たちが次々とたくさん花を咲かせてくれます。そんな年回りなのでしょう。

そんなげんきの森で、ササユリもまたたくさん花を咲かせるべく、あちこちで蕾を膨らませてくれたので、今年の里山はササユリの花で美しく染まるなど楽しみにしていました。でも、花が咲き始めるとあちこちでササユリの花が消えていきます。蕾のあった場所の地面を覗いてみると引きちぎられた茎が見つかる場所もありました。きれいな花をみんなのために大切にしようと考えてくれる来園者がほとんどの中で、持って帰りたいと考える人もわずかですがいるようです。そんな人が一人でもいるだけで、この美しい花を楽しむことはできません。

清楚に咲くササユリの花の前で少し寂しい気持ちになってしまいました。 岡田 和久